

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成17、18年度採択)

中間評価結果(公表用)

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	道路機能に対応した性能目標照査型道路計画・設計手法論の研究開発	名古屋大学大学院助教授 中村 英樹	A

< 研究継続の妥当性評価 >

- 研究の進捗状況、研究成果の見通しはともに良好であり、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への要望 >

- 道路の設計変数・計画変数を将来の可能性を含めて幅広く抽出した上で、設計フローを整理して頂きたい。需要特性や気象特性が道路の交通パフォーマンスに及ぼす影響の把握に大きな労力が費やされているが、将来はより柔軟化することも考え得る設計変数・計画変数を含めて、それらが交通パフォーマンスに及ぼす影響に関して、海外事例を把握しつつ重点的に調査研究を進めて頂きたい。
- 平成19年度に予定されている「街路系道路の計画設計手法の開発」は重要な研究テーマであるが、今後より発展的な研究成果を得るため、上記1.に重点を置くことにより、さらに効果的な研究となることが期待される。